

ます。

市…コロナ禍によってSDGsを見直すということではなく、コロナ禍をきっかけとして、より自分ごととしてSDGsに取り組んでいこう、ということですね。

指出…SDGsは全世界の未来の目標であるけれども、個人の未来の目標はもっと小さなものでもいいわけです。

自分の息子や娘が楽しくすくすく育ってくれたらいいとか、そういう小さな未来に17のゴールを照らし合わせるってことですかね。例えば海に連れて行って、海っていいなって子どもたちが思ってくれたら、これは「海の豊かさを守ろう」につながっていきま

未来をやらわらげる

市…わたしたちの小さな未来を想像することもSDGsにつながるのですね。

指出…未来をやらわらげておくことが大事ですね。どうということかというところ、「いい大学に入って、いい企業に入ることが輝かしい未来」だって、理想を決めすぎると「そうならなければ！」って、カチカチした固い未来になってしまう。でも、いろいろなことが起こるのが人生です。もともと目指していたわけではないけれど、今でい



えばユーザーになっていたりする人もいるわけじゃないですか。未来ってやらわらかいものなんだって認識することが大事です。

未来がやらわらかいものになるかならないかは、僕たちがどうSDGsのゴールに取り組むかによるわけですね。例えばプラスチックごみが群馬県内の上流から流されてきて、海に広がって、海の豊かさがなくなったら僕たちの未来は海では泳げない、海でははしゃげない未来がくるわけです。それはきつと固い未来ですよ。海が安全で、楽しめるようになればそれはやらわらかい未来です。そういう風に物事のつながりを考えるのは大事ですね。

SDGsと子どもたち

市…安中市がこれから取り組むにあたり、どんなゴールが適していますか。

指出…安中市はポテンシャルがあるんですよ。日本の各地の、特に西日本のまちづくりの先端を走っているまちって、人口が2万、4万、6万くらいのもちなんですね。そのまちの人たちや若い人たちが何かをやるときに、もともと知っている関係性がいっぱいあったりとか、ある物事のプロセスを経るまでの人数が少ないとか、そういう意味でスピード感がある。そうするとイノベーションが生まれやすいんです。安中市は、人口の規模感とか森や川や湖があって商圏に近い立地などが、若い人たちにとって挑戦しやすい場所だと思っています。

そう考えるとゴール11の「住み続けられるまちづくりを」はよく合いますね。

あと、安中市は災害に強いですよ。ただし、今は災害がどこでも起きる可能性のある社会になってしまったので、何か必ず起こりうる中で備えられているっていうことがみんなの安心につながっていきます。

なので、みんなが安中って安全だなんて感じられるようにまちの健康度を上げていくことが良いと思います。

これからはひとりひとりの個人だけでなく、地域や世界が健康になっていかなきゃいけないと考えています。別にマツチョロじゃなくてもいいんですが、住んでいて心も健康で体も健康で、安心な市っていうのはSDGsの文脈にピッタリだし、安中市の目指す方向に特に合っていますね。

市…今後のSDGsの在り方、進め方についてどうお考えですか。

指出…自分たちが何をするかっていうのも大事なんですけど、今の社会と大人がSDGsを広く伝えていくことで、次の社会をつくる子どもたちがこの空気感をとっても大事だと思って成長していった結果、イノベーションが起きたり、それこそ新しい安中市をつくるような若者に育っていくことになります。SDGsに影響を受ける子どもたちが確実に育っている時代なので、そのバトンの受け渡しを大事にするといんじゃないかなと思います。

